

経営比較分析表（平成30年度決算）

大阪府枚方市 市立ひらかた病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	300床以上～400床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	24	対象	ド未訓方	救臨感輸
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
402,579	31,824	非該当	7：1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 方…ガン（放射線）診療

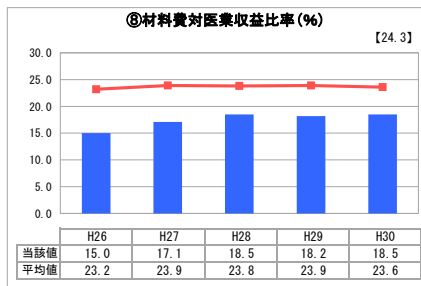
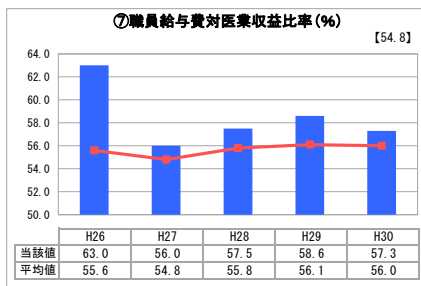
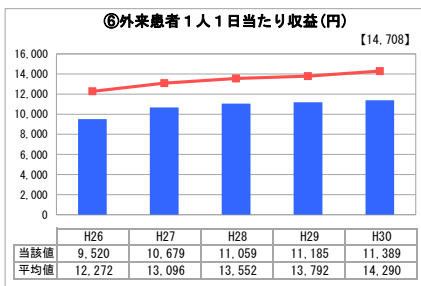
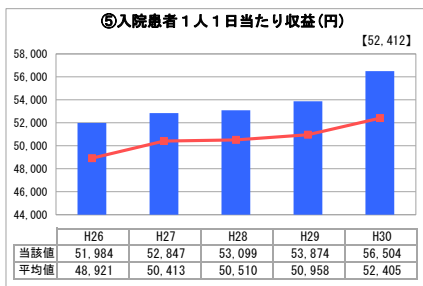
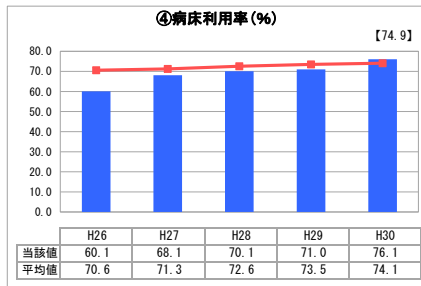
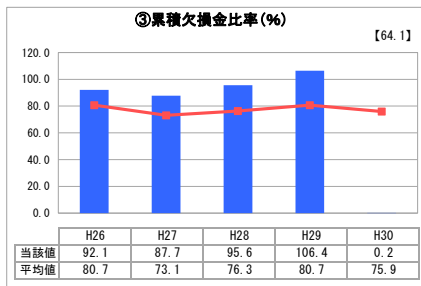
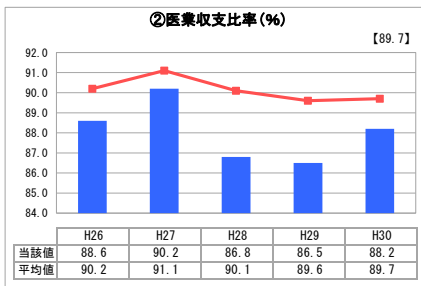
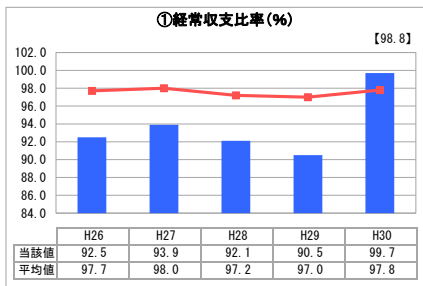
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輸…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
327	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	8	335
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般＋療養）
327	-	327

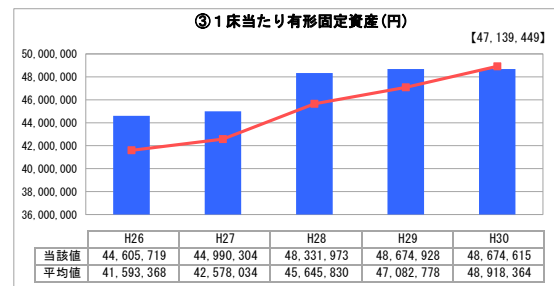
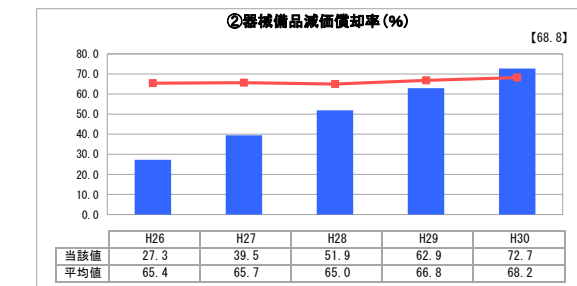
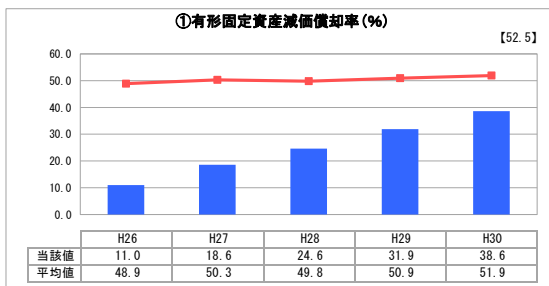
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-年度	-年度	-年度

I 地域において担っている役割

本院は、幅広い疾患に対して効率的な医療を提供する急性期病院の役割を担うとともに、北河内唯一の市立病院として、救急医療や災害時医療、小児・周産期医療などの政策的な医療を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

入院・外来収益ともに前年度より増加し医業収益は82億2,864万円となったが、医師や看護師等の採用により給与費が1億2,035万円増加し、手術件数や抗がん剤の使用量の増加に伴い材料費が9,526万円増加したことにより、医業費用が前年度と比べ増加し93億2,715万円となった。医業収支は約10億9,851万円の支出超過となり、総収支も約3,018万円の純損失となった。

経営の健全性を示す経常収支比率・医業収支比率については、昨年度から改善しているものの100%を下回っている。

累積欠損金比率については、市議会の議決を経て自己資本金を減少し繰越利益剰余金に振替を行ったことから大きく改善した。

外来患者1人1日当たり収益については、検査収益が少ないことにより類似病院平均値より下回っている。また、材料費対医業収益比率は、医業収益に含まれる一般会計繰入金が他病院に比べて多いため、類似病院平均値を下回っている。

2. 老朽化の状況について

当院は平成26年9月に開院し、平成30年度で開院5年目となった。

現在のところ施設に大きな老朽化は見られないが、24時間稼働していることから、施設更新計画を踏まえ、現状に合わせて計画的に修繕・改修等を行っていく必要がある。

器械備品減価償却費率については、新病院開院に向け整備を行った多くの医療機器が償却終了に近づいていることから増加し、類似病院平均値を上回っている。機器更新計画に基づき計画的に更新していく必要がある。

全体総括

医業収支は、支出超過となっていることから、引き続き、救急搬送患者の受け入れ促進や、積極的な地域医療機関への訪問により信頼を高め、紹介率・逆紹介率の向上を図ることで、医業収益の増加に努める。

また、平成31年4月から消化器内科と消化器外科を一元化した「消化器センター」を本格稼働させ、臓器ごとに専門性の高いスタッフのもと、がんをはじめとした消化器疾患に幅広く対応し、これを柱とする収益構造の構築を図り、病床利用率の向上に努める。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。